

平成 30 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2018

| | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| 講座名・職名 Course Title・Job Title | 日本語日本文化教育センター・日本語日本 文化専攻・准教授 |
| 氏名 Name | 松村 薫子 |
| 専門分野 Academic Field | 日本文化学・民俗学 |

| | |
|---|--|
| 主たる研究テーマ Principal Research Subject | <p>①衣服の素材における怪異伝承研究</p> <p>②日本以外の国の妖怪文化についての研究</p> |
| <p>①衣服の素材にまつわる怪異伝承研究では、昨年度から引き続き着物の素材における怪異伝承の関係を考察するとともに、着物における空間という視点からの研究を行い、着物における空間認識と怪異伝承との関係を考察した。その成果は、2019年3月にタイのチュラロンコーン大学において「怪異が発生する空間」というタイトルで貴重講演を行っている。本研究については、日本以外の国の伝承など他の事例も含め、さらに今後も研究を深めていきたいと考えている。</p> <p>②日本以外の国の妖怪文化についての研究は、これまで様々な国の留学生から得た妖怪文化の情報を手がかりに妖怪の資料を収集し、日本以外の国の妖怪がどのような性質や姿形をもつ妖怪なのかについて研究した。今年度は、日本の鬼、河童、幽霊それぞれに近い妖怪について調べ比較研究を行った。水の妖怪が馬を引き込むなど、妖怪の性質が日本の河童と共通しているものなどもみられるが、性質や姿形などについては差異も多い。それらの共通点や差異の理由については現時点では明らかにできていないので、今後引き続き研究を継続していきたいと考えている。本研究の研究成果の一部については、今年度2月に愛知県立大学の集中講義で示すことができた。</p> <p>また本研究と並行して、子ども絵本に描かれる妖怪観についての研究も行っており、今年度は特に江戸時代に描かれた妖怪絵本を中心に考察した。さらに最近刊行された絵本についてもこれまで行ってきた研究に加えながら総合的に分析し、妖怪観が時代によってどのように変化しているのかについての研究を行った。今年度は子ども妖怪絵本についても、日本以外の国の絵本も収集・調査し始めており、韓国で発売されているトッケビについての妖怪絵本などいくつかの絵本資料を収集し考察を行った。研究成果は、8月に開催された漢陽大学校（韓国）共同学術シンポジウム「妖怪」もう一つの日本の文化コードにおいて、「子ども絵本に見る妖怪観の変遷」というタイトルで発表を行った。この発表内容は論文にまとめ、すでに韓国の出版社に入稿し、来年度韓国語で刊行される予定である。また、本研究の成果の一部をまとめた論文「絵本における表象と影響－現代における妖怪イメージの形成を中心に－」（『文化を映す鏡を磨く』せりか書房、2018年7月）も今年度刊行した。</p> | |